

7校の思い込め宣誓柴田・佐藤主将「未来へ進むと信じて」

先陣「宮城大会開幕」

第93回全国高校野球選手権大会(8月6日から15日間、甲子園)の宮城大会が9日開幕。あす11日に東日本震災から4カ月を迎える中で、被害が大きかった東北3県のうち岩手、福島、先立って特別な夏がスタートした。Kスタ宮城で行われた



開会式では7校が入場行進。選手宣誓では柴田・佐藤裕次主将3年が力強く宣誓した。順調に日程を消化すれば28日に代表校が決まる。この日は宮城を含めて26大会が開幕した。【関係記事8面】

被災地の球児たちの特別な夏が始まった

野球でできる喜び

あれから120日があった。震災時に粉雪が舞った。あの空には、くもりの太陽が輝く。梅雨の合間の快晴は球児たちへの贈り物か。開会式の選手宣誓。柴田の佐藤主将は79秒間のメッセージに思いを込めた。

「被害を受けた多くの方々には普通に生活ができていたことが、どれほど幸せだったかをあらためて実感していると思います」

「被書を受けた多くの方々には普通に生活ができていたことが、どれほど幸せだったかをあらためて実感していると思います」

「被災した14校すべてが開会式に参加し、行進では石巻、石巻工、宮城農の3校が横断幕を持った。「感謝を力に」との言葉を仲間と携えて行進した宮城農・佐藤主将は「支援物資がなければ野球ができませんでした。被災をハンデと思わず、被災した人々を励ますようなプレーをした。それぞれの特別な思いを。」

◇選手宣誓全文◇
3月11日、あの日の東日本大震災から4カ月がたとうとしています。私も含め、被害を受けた多くの方々には普通に生活ができていたことが、どれほど幸せだったかを、あらためて実感していると思います。人は支え合い、協力し合うことで希望を見だし、未来へ進むことができると信じています。いつまでも下を向いては何も変わりません。だからこそ、私たちは今大会を通して、勇気や感動を与えられるよう、熱く、元気よく、精いっぱい戦い、野球ができる喜び、そして環境にあることを人々に感謝し、全力プレーで正々堂々と戦うことを誓います。
平成23年7月9日
選手代表 柴田高校野球部主将・佐藤裕次



被災地の先陣を切って宮城大会が開幕。「あきらめない街・石巻」の横断幕を手に、選手宣誓する柴田・佐藤主将

エース曾我12K完封一番星

津波で亡くした母に「ささげたい」控え小野
振を奪って完封。「震災で練習不足だったので、自分が抑えて打者は打撃に集中してもらおうと思った」と喜んだ。東日本大震災で曾我の自宅は床上浸水して、今大会から使うはずだった新グラブは泥まみれになった。校舎も津波の被害こそなかった

がグラウンドは地割れし、バックネット裏の鉄柱が傾いて練習は約3週間中断。練習再開後は放課後の練習以外にも朝練で練習不足を補い、この夏に備えてきた。津波で母・由美子さんを亡くした控えの小野は「この勝利をささげたい」と感慨深げ。困難を乗り越えてつかんだ1勝。名取の夏はまだ終わらない。
＜名取・柴田農林高川崎＞完封し佐藤達捕手(右)とハイタッチする名取・曾我



高野連・奥島会長が出席
○：日本高野連・奥島孝康会長(左)が宮城大会の開会式に出席した。日本高野連会長が地方大会に足を運ぶのは極めて異例。奥島会長は「東北の勇し、しごとを發揮することがあすの東北の希望になる」とあいさつ。宮城のほか被害の大いなる岩手、福島、被災地の(岩手・釜石)も被災し、被災地を回って状況は知っている。宮城は被災校が全て出場し、元気な行進をして、感謝したと語った。